

永田川のサギ

永田川は鹿児島市南部を流れる川で、かつてはその流域には水田が広がっていました。近年の都市化で中流域、下流域の水田が減少し、川の周囲の環境が一変してしまいましたが、川の中州や堰を中心に現在もなお数多くの野鳥が飛来します。今回は、6月末に永田川を訪れた際に見ることができたサギのなかまを紹介します。

コサギ

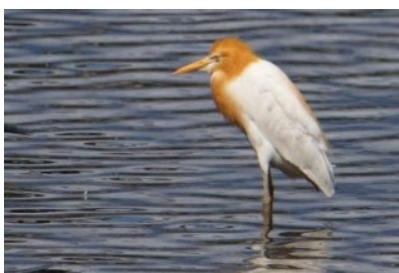
観察日には、永田川の中流から下流域にかけて多くのコサギを見ることができました。



コサギは全長60cmほどの小型のサギで、くちばしと足が黒く、足先(指)が黄色いのが特徴です。採食行動はやや活発で、この日も盛んに魚を捕らえる様子を観察することができました。

アマサギ

下流の谷山駅付近で、アマサギを目撃しました。



アマサギは、コサギよりも小さいサギで、日本では夏鳥として飛来します。夏羽が頭から背中、胸にかけて垂麻(アマ)色になることからアマサギと名付けられています。

シラサギという鳥?

羽が白いサギを「シラサギ」と呼びますが、実は、羽が白いサギの総称で、種名ではありません。上で紹介したコサギ、アマサギと大型のサギであるダイサギ、夏鳥であるチュウサギの4種が含まれます。

アオサギ

日本で繁殖する最大のサギであるアオサギを中流域で確認することができました。



全長が90cm近くあり、首、足が長く、堂々としたサギです。増加傾向にある野鳥で、それを反映してか、永田川の様々な場所で目撃することができます。

ササゴイ

中流域の中山真方堰でササゴイがじっと魚を狙っている様子を見ることができました。



ササゴイは、全長50cmぐらいの小型のサギで、夏鳥として日本に飛来します。羽の部分に白い縁取りがあり、笹(ササ)の葉のように見えることからササの名が頭についています。

ゴイサギ

同じく中山真方堰付近にいました。



成鳥

ゴイサギは、ササゴイよりやや大きく、青と灰色の混ざった背と赤い目が特徴の留鳥です。

この付近で繁殖をしているらしく、羽に星のような斑点があることから「ホシゴイ」と呼ばれるゴイサギの幼鳥を3羽確認することができました。



幼鳥